

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成27(2015)年  
**5月号**  
通巻537号  
毎月23日発行  
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成27年5月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷製  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



平成26年5月7日 鳥海山と桜並木 青森県弘前市 石田勝利さん撮影(文・5頁)

平成4(1992)年8月2日

## 大倭を語る——野草塾での講演より〔4・最終回〕

法主 矢追日聖(満80歳)

### 奇稲田日女命

この拜殿の祭壇には、人格神を三つお祀りしてあります。まず向かって右側が奇稲田日女命。霊界で見とつたら女の大將で、大したもんですよ。この人が産まれたのはヤマトの三輪の出雲ですわね。八岐大蛇の神話は、現在は山陰の出雲の方に行ってますけど、霊的能力者である私の母親やお祖母さんが見た時に、奇稲田日女は三輪で産まれてると言うんですわね。この中でも、さつき誰か三輪山に寄って来ましたという人おりましたけどね。(※現在も奈良県桜井市に出雲の地名がある)

アシナツチ・テナツチという親から産まれた、八人の娘さんの八人目ですわね。八岐大蛇は頭が八つ、尾が八つなんて言うけれど、そんな蛇めつたにおれへん。あれは嘘やねん。昔の人は、何や知らんけど八という数字がええねんな。数字にも霊が働くと言うてね。

それで娘さんの七人まで大蛇に食われたというねんけど、古代のヤマトの真ん中は広湖で、三輪よりも南の方は吉野地帯や。そこにはいろんな部族がおつたし、略奪結婚の習慣のある時代もあったと思う。七人までが略奪されて、最後の一人の時に、須佐之緒命が出て来て大蛇退治したというような話やわな。

その大蛇の尾から天叢雲剣が出て来たと言うんやけど、剣なんか鉄器時代の物やから、そんなに古い話やあらへん。

そこがまた伝説と現実とが開いてくんのや。その剣は、日本武尊の時（日本武尊の時は草薙剣という名前になっているけど）。

大体私の頭は、生まれつき唯物的に出来とって、学校におった時には考古学で土いじりばかりやとってん。知ってるでしょ？ あちこちで古墳とか発掘してる、物一つ持つて来なければ何も言えない学問やねん。だから、もう亡くなった末永雅雄さん（※初代榎原考古学研究所長）とでも心やすかったけれどもね。

そんな私の頭やから八岐大蛇の伝説一つでも、「なんや鉄器時代の話でええんか」と思うんです。まあ昔の話やから、何がほんまやら嘘やらわからんわ。けれども、そんな伝説があるという事は、別にそのままでも何も疑うこといらんし信じることもいらん、「昔の人が言い伝えて来てんな」で置いといたらいと思うねん。

## 光明皇后と中国のお姫様

それから、祭壇の向かって左側の方にあるのが聖武天皇の奥さんの光明皇后、安宿媛です。

もう一つその隣にお祀りしておるのが、夜な夜な私の所へ来はったお姫さんや（笑）。ちょうど昭和二十二年にここに入った時にね、私が寝とったら、夜中に衣擦れの音してくるのが耳で聞こえんねん。掘って立（た）小屋やから、ぼったり戸や。目を開けたら、二十七、八歳くらいのお姫さんがそこから入って来るんやな。それが何しに来るのか、一週間ほど毎日ですよ。この姫さんの場合は、別に寝間の中に入って来やへんかったけれども、たまには入って来た人もおんねんで。あんたらそんな経験ないやろけど（笑）。

それで、私の母親は霊的能力がものすごく鮮明

にわかる人なんで、「これ誰や？」と聞いたんですよ。そうすると意外やったけど、中国の玄宗皇帝の時に有名なお妃さんがおったわな、何ちゅうたかな？

（楊貴妃）の声）

あ、そうやったな。その楊貴妃の娘らしいねん。歴史で見たら楊貴妃に子供あったんか、私そんなことわからんけれども、遣唐使で中国に行った坊さんが帰って来る時に、「この子危ない」というので頼まれて日本に連れてきて、ここで生活したと言ってます。それを世話したのが光明皇后さんらしいんです。

うちの母親はね、明治二十年くらいに産まれるから学校も満足に行つてないし、勉強みたいなことしたことない。歴史も字も知らん人ですよ。琴と三味線と胡弓とか、そんなことばかりやってううちに嫁に来たんやけれども、それが「楊貴妃の娘」とちゃんと字で書いて持つてくんねん。うちの母親にしたら聞いたことのない名ですけれども。

それを私は、ただ「そうかな」と疑いもせん信じもせんけれども、昔からここに居った人で、夜な夜な出て来た事実は認めてるからね、そのお姫さんの座もここに作つたんです。霊界人と言つたって、やっぱり肉体の持つてる人と交流なかつたら駄目なんですよ。

だからこれは、信仰する対象でも何でもなくて、我々人間同士、家族仲良う暮らしているのと一緒です。肉体的ない霊界の人と、我々肉体的である者と交流する意味においてお祀りしてあるんです。いわばこっちが祀つたてんねん（笑）。なんぼ偉い人やいうたかて、肉体の持つてる人間と一緒にの方がいいんですかね、やっぱりお世話してやらんとあかんねん。

## 想念で創り出したもの

そういうような人格神だけやなしに、現実の世界の人間が想念で創つたものも霊界におるんやで。

私が東京におった昭和十六年頃、金ピカで尾が九つもある狐が出て来たことあんねん。先に言うた川面凡児という人の後に私が入つた神殿の中で。

今ここにはる出口さんが、このあいだくれた本を広げて見出しずと見たら、「金毛八尾の狐」と書いてあった。「あれ？ 東京におつた時、九つの尻尾の狐が出て来たことあるな、川面凡児いう人と大本と関係あつたんかいな？」って、何か親しいような感じして面白うなって来てん。それで「出口さんと会うた時こんな物語してもええな」と思うてん。

まあ現実を考えてみい、金色で尻尾が八つも九つもあるような狐おつたら、世の中どないなんねん（笑）。誰がそれを最初に創り出したものか知らんけど。

またね、私が初めて天理教の本部に行つた時には、白狐が飛んで行つたんで、「天理教の初めに、神懸りみたいなもんで出て来た狐やな」と思うた。初期の天理教の人なら知つてると思うわ。石上のあたりにおつた古狐やと思うねんけど。まあこんなん言うたら、天理教の人が気い悪うするかも知らんけど、狐の形しとつたかて高度な霊魂持つてるのもおるんやからね。お釈迦さんでも狐に法を説いてもらつた経文の中に出て来るし。

けれども、こんなんそもう気違いの世界です。元来私は、とにかく物事きつちりと1+1=2とやらんと気に食わん性格やねん。それで考古学や

つとってんから。ところが霊界の人と一緒に  
たら、1+1=3になったり10になってみたりね  
さっぱり合点のいかんことばかりになってく  
ねん(笑)。

## 終戦と天皇のいふ

それで、まだ「天皇というのは現人神あらひとがみや」と  
奉たやうつておつた時代のことですけれどもね、「天皇  
が地に落ちる」と霊界の人が言うんですよ。それ  
が結局、戦後ああいふ形でいくと日本が、  
……〈ドタンドタンと大きな音〉……

何が起こったん? 「天皇が地に落ちる」なんて  
言うたから?(笑) これも何かの現象かもわか  
らんし。ま、私にはそんな面白いものあねんな。  
そんな予言めいたことを私は絶対疑う人間やつ  
たけれども、戦争に負けて、それを信じるような  
結果が出て来たわけですね。

それで、さっきも「兜脱かぶたひいだ」と言うたように、  
終戦の時から割り切りしました。「もう唯物主義だ  
けではあかん、霊界の人と仲良うならんとあかん  
な」と思うて。

やつぱり我々人間には首の上がなかったらどう  
にもならんのも同じで、国に王さんがいるとい  
うのも、必要になって出てくるのやから、一つの制  
度として結構なことやと思う。けれども、それを  
超人間的な神様扱いするということは、よろしく  
ないと思う。過去においてもね、喧嘩ばかりして  
おつて鳥流とりりゅうしになったような天皇もいてはるのや  
しね。天皇が、知らぬ間に雲の上に乗らばつたの  
がそもそも具合悪いんや。

だから戦争に負けたお陰で、天皇が人間になっ  
てくれはつたから、我々親しみ持てるんやし。特  
に今の天皇さん、私と同じ十二月二十三日に産ま

れてはる。その日に何か意味があつて産まれては  
ると思うし、何や弟が出来た気になつとんねけどね。

## 宗教団体を作らない

霊の障りさやで病気になって困っている人があると  
するやろ。ところが、大抵それを宗教として扱  
うねんな。「これ直つたの神さんのお陰やから、信  
仰せん」と罰ばちが当たる」と脅かしたりするんや。

「病気が霊的な障りと違うか?」と、ここにも  
よく相談に来ます。そんな、その霊をちよつと  
外したらしまいや。それでも足らんとこはお医者  
さんにかかったらええねん。それで元の健康状態  
に戻るの、自分の生命体が病気に打ち克つから  
であつて、医者はステッキや杖のように医療で助  
けていくだけです。それと一緒にね、靈魂がへ  
ぱり付いとつたら、手術するようにそれちよつと  
はずすだけ。それを私は「心霊治療」と名前付け  
てあねん。

だから大倭へ来て病気治つたから、やれ「大倭  
の神さんありがたい」とか、「大倭教信仰します」  
とかアホなこと言うなと言うんです。そんなのを  
宗教や信仰に結び付けたら邪道です。それでも、  
こんなこと言うたら悪いけどね、「大倭で病気治  
つたからありがたい」と言うて来る人が、どうし  
てもぎょうさんおんねん(笑)。

大倭の神さんはなんば信仰したかて、何にも御  
利益りやくないです。貧乏神さんやから(笑)。

ここは宗教法人になつて居るけれども、私は信者  
を認めておりません。世間から見たら私は大倭教  
の教祖です。けど、教祖が高い壇作つて喋る、一  
般の信者さんは下で這いつくばつて居る、これが  
かんと霊界の人に言われてます。そやから私がそ  
んなことしたら、もう命あれへん。

私が宗教でいく時、一番最初に聖徳太子から、  
「どんなことがあつても御輿みこに乗るな。御簾みかさの内  
に入るな。いつでも一般の人と同じ社会の底辺ひだに  
おれ」と言われて、それをずっと実行して今日ま  
で来てるんですね。

だから信者ではなく、私には仲間が大勢いらつ  
しゃるけれども、私と対等、みんな同じ。私には  
大倭教の偉い人とか、あるいは大倭教の教祖やと  
かね、そんな自惚うぶほれは全然ありません。それだけ  
よう理解してほしい。

また、宗教法人になつたら団体が出来るとし  
よ? そしてその団体、優越感ゆうえつかんばかり教える。  
あんたら宗教団体に入つてみい、「この宗教に入  
つて幸せや、救われました」と一番先に言われる  
わ。大体の宗教はそうなつとるけど、それでは世  
の中は平和にならんよ。神さんの世界から見たら  
逆やもの。そういうような偏見へんけんから出発するから、  
宗教団体は作らん方がええ。

けれども、相談事あればね、私で間に合うこと  
であれば利用して下さい。それがために持つてお  
る値打ちある能力なんです。だから、それを活か  
すのが相互扶助、お互い助け合うていくというこ  
とであつて、社会福祉の原則なんです。

大倭で私はいつも「三つの信条」を言います。  
その第一は「地下水の精神」、第二番目は「心身  
の健康」、三番目が「相互の扶助」です。

「神さんありがたい」とか、「神さんは御利益  
がある」とか、そんなのおよそ縁の遠い話や。そ  
れよりも「生きてる人間同士が、お互い仲良う幸  
せにいこやないか」という運動が私のお役目なんです。  
そしてまた、肉体の持つて居る人間が「頭」で、  
心とか霊界の肉体の持たない人間とかが「幽」や  
けれども、肉体の持つて居る人間だけが仲良うする  
だけでは、「頭」ばかりになつてくる。「幽」が

なぎゃいかん。「頸」と「幽」が一つになること  
によって両方が幸せになってゆくんです。

## お祈りはそれぞれの型で

大本の先生でもそんな意味のことおっしゃっていると思うんやね。神ながらの原理というものは、自然によって仕組まれているんやから、人によって見る角度が違っても、落ち着く所はみんな同じ、全部が一つのものにまとまって来るんです。

誰が悪いのが悪い、どこの宗教が良い、どこの宗教が悪いというのは一切なくて、結局、万教歸一なんです。だから今日お参りするのには、大倭のお祭りが絶対的とか一番ありがたいとかはありませぬ。いろんな宗教の型というのがあるからね、大本教は大本教の型があると思うし、それぞれの型通りにお祈りしたらいいと思います。

それでも祭壇にあんまり何もなかったら不細工で格好付かない(笑)。だからちよつとお供えしてあんねんけれども、皆で持ってきてくれたら一番ええんや。……あんなもん誰持って来てくれはったんやろ(笑)。

霊界の人の心は人間と一緒に喜ばはるけれども、肉体のない人間やから実際に食べはらへん。だから、後からそれをみんなで分けることを直会と言はんやね。霊界と現界の人がみんな一堂に集まって、楽しく過ごすということ。この場所で、神さんは向こうにおおると思っているか知らんけど、あんたらの座っているこの中に、あんたらのご先祖さんもおんねんで。それで向こう向けないでこつち向けでお供えしてあんの。結局、あんたらのために供えてるんやで(笑)。

今日この後でなんかお祈りすんねんな？ それなら、そのことも心得ておいてもらいたい。

## 宿命と運命

今日、皆さんに話したかったことはね、人間が受胎した時に、その人の一生が定まっているということなんです。私の生い立ちのいろんな特殊なことや、私が現在やっているこの仕事も、受胎した時に決まっとんねん。私の母親が神懸り、お祖母さんも神懸り。けれども私の父親は反対、お祖父さんも反対。そういうような、いわゆるプラス・マイナスの中で来たんやと思う。

誰でも大なり小なり、宿命と運命の絡みによって動きが出てくんのやな。宿命の線はあまり動かんとと思うけれども、運命というやつは自分の意思も働いてるからね。

実は私の嫁さんの弟が亡くなってね、今日はそのお通夜ですわね。七時から言うけど、晩十二時頃までに行つてやつたらええねん。まあこれ、人間の義理や(笑)。やつぱり世の中義理と人情はずしたらあかん(笑)。

私はもうこの辺で失礼するけれども、また後で何か聞きたいことあったらお手伝いします。皆さん、またよろしくお付き合いしましょう。(拍手)  
(鈴月かあさんのお話)

私の一番仲のいい弟ですわねけど、昨日亡くなったらしい。別に悲しいとかそんなこと何にもないんですけどね、今日みんなの顔見たいし、若い人と仲間になりたいと思うてな。あ、「なりたい」やないわ、入れてほしいと思うてんねん。私はほんとに出たがりやでね、みんなの所へ「来るな」言うても、こう掻き分けて(笑)、行きたい方のたちなんです。そんなんやから、まあどうぞよろしくお願いします。(拍手)

ほんで、野本三吉さんの息子さんが来てるそう

やけど……。

「はいー」の声

そう！ 『生活者』はいつも見てるけどな。えらいよう来てくれましたましたな。帰つたらお父ちゃんお母ちゃんによろしく。

「はいー」

文責・編集部

## おわりに

林 修三

一九九一年の年の瀬、大阪北浜にある私の小さな中国語の有朋塾を、飄然と野草社の石垣雅設さんが訪ねて来られた。用件は、次の夏の「野草塾」を大倭あじさい邑で行うに当たり、その現地で準備を私に任せたいとの由だった。あまりに突然の申し入れに戸惑い、何をどのようにやっていいものか皆目わからなかったが、直観的な喜びの方が勝つてしまい、思わずお引き受けしてしまう事になった。

それ以後、野草社の完全なバックアップと多くの方々の助けをいただき、様々な事を乗りこえて、一九九二年夏、参加者・スタッフ・講師等、二百名強による、三泊四日という私にとって空前絶後の第十二回野草塾は実現の運びをみた。空前絶後はその規模だけではなく、正にその内容の深さ、濃さによる。

洩れ聞く所によると、法主は最初このイベントが大倭あじさい邑で行われる事をお聞きになると、「そんなん、ややこしいのがいっぱい来たたら、かなわんなあ」という様な思いをお持ちであったらしい。しかし、実際に野草塾が開始されると、お忙しい中、そのほとんどの集いに顔をお出しになり、最終日の庄巻の野草塾名物、個人の感想会に当たっては、当日の昼前から夜の九時過ぎ迄、すべての塾生が感想を述べられるのを熱心にお聞

きになった。そして、多くの遠方から来られていた参加者達が、一人、又一人と去って行くのを、ほとんどその姿勢をくずされる事もなく見送られていた。連続十時間に及ぶ感想会であった。

すべてが終わり、司会をつとめていた私が、ほとんどの人が去っていった拝殿の中で、内陣の前に座しておられた法主に終了のあいさつに伺うと、「わしは何も言わんでええのか？」と言われた。その意外なお言葉に恐縮していると、今度は、「歌でも唄おか」とおっしゃった。驚きと嬉しさで「お願いします」と申し上げると、法主は立ち上がり、ナント、艶歌(題名は忘れました)を唄い出された。その男女の秘め事を唄ったような艶歌は、ある種真面目に、あるいは靈動したかのように思いの文を語り、去っていった方々の心を慰め、柔らかく包み込むかのごとく感動的だった。動と出れば静を貫き、静なれば動とごく、陰と陽のダイナミズムを見る思いだった。やがて鎮めの様な法主の歌が終わり、本当に長い、感慨深い第十二回野草塾はお開きとなった。

長々と個人の経験を語らせていただいたが、今回連載の法主のお話しは、そのような条件、環境の中で、聴衆である野草塾参加の方々に語られたものであった。

当初法主が「そんなのかなわんなあ」と思われていた方々は、実は大倭と縁深き、使命ある方々である事を、野草塾が開催されていた四日間を通して、法主様は感じられたのではないかと思う。否、そうに違いないと今の私には思える。

あの日、大倭大本宮の拝殿から『南総里見八犬伝』の玉のごとく、いずれかと飛び立っていった「命」達は、今、何処にいて、何をしておられるのだろう。なんとも懐かしく、胸しめつけられる思いがする。

### こぼれずみ の我が家へ

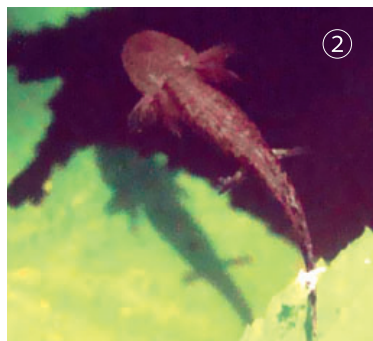
新潟県佐渡市在住 大滝 哲也

まだ雪の消えぬ早春、我が家の池に、長さ20センチほどの黒いサンショウウオがやって来て、親指大の白い袋の中に卵を産んでいく。それは水温の上昇と共にだんだんとふくらんで透明になり、卵がかえる頃には写真①のようになる。



やがて、ここから長さ2ミリほどのオタマジャクシがたくさん出て来る。それは六月頃になると、長さ3センチほどになる(写真②)。首の両脇に出ているのは鰓で、これがカエルのオタマジャクシと違うところだが、肺が出来るとこれがなくなつて、彼らは池から姿を消す。そしてまた、冬が終わると卵を産みこぼして来る。

私は毎年、池の中のこの生き物を見てホッと安心する。環境の変化に敏感な彼らが池と下の溪流とのあいだを行き来しているのは、我が家の生活排水が流れる水路。私は



その山の山菜や、その水が流れ込む海の幸を食べている。そのため、もしこの生き物が通れなくなるとような物を流せば、いずれ自分の身にも影響が及ぶ。

近頃、遠くカナダの海で、日本の原発事故の放射性物質が検出されたそう。汚染水が大量に流れ出たからなのだろう。周辺地域の除染もまだ終わっていないようだ。日本には今、しなければならぬことがいくつもあつた。国際競争支援などに税金を使う必要はない。

#### 表紙写真について

編集部

昨年4月号の表紙写真によせて、石田勝利さんが、

《出口王仁三郎の『和田湖巡礼記』の一文に、秋田県鳥海山を眺め「チョウカイやない、トミと読むんや。稲のことや」とある。…略…稲の古代名が「富草」である、と。『ながそねの息吹』、法主様も、「稲の別名を古くから登美草と称せられた」と書かれる。…略…文字が色々当ててあつたのだろう》

という内容のことを書いてくれました。出口三平さんから編集部にお問い合わせがあり、石田さんを紹介しました。

4月号の出た折、石田さんは7年振りにカメラ片手に鳥海山の写真を撮りに出掛けられ、それがこの写真ということです。しかしカメラのシャッターが錆びていて、フィルム半分の半分がパー。初めて息子さんのデジタルカメラなる物にも触れてみたとか。

20キロメートルに6500本という桜並木を撮って帰ったちょうどその時間に、三平さんからの手紙が配達されてきて、石田さんは感激したということ。 (春)

# 寸 莎

第114回

松永 秀彦さん



## そよ風が吹くよつに

今回登場してもらう松永秀彦さんは大倭殖産株式会社に勤めて十三年目になる土木担当の中堅社員で、最近菅原園の東側で行われた須加宮寮開発工事（大規模な用地造成工事）の現場監督も務めている。

この寸莎のシリーズのインタビューをこれまで続けてきて、今回ほどそよ風が吹くようにスムーズに受け答えをしてもらったことは稀である。それは、ひとえに松永さんの率直で気負わない性格によるものであろうが、その松永さんが、これまでどんな育ち方や暮らし方をしてきたのか、興味を持たざるをえなかった。松永さんは昭和五十二年八月二十日に岐阜県揖斐郡池田町で二人兄弟の長男として生まれた。「人口二万人ほどの田舎町で、小さい時は近所のお兄ちゃんたちと木登りをしたり

して走りまわっていた」というノビノビとした子供時代だったようだ。

「父は、小さい頃は怖い父親でよく叱られたが、中学になるともう怒を言わないやさしい人で、『お前の好きなように生きたらいい』と喜んでくれていた」というバランスに恵まれた家庭に育った。

小学校の途中からサッカーをはじめ、中学でも続けた。高校は大垣西高校に進んだが、片道一時間の自転車通学で、「雨でも風でも自転車をこいだ」。そのことが後年のロードバイクの趣味につながったようだ。「理数系の学科が好きだったのと、家を出て一人暮らしがしてみたかったという願いもあり」、栃木県にある足利工業大学に進学し土木工学を学んだ。入学して一年間の下宿生活をしたあと、部屋を借りて念願の一人暮らしをはじめたが、「淋しいと

いうことは全くなかった」という。大学までの学生生活をふり返ってみて、「友達とワアワア言いながら仲良く過ごしてきたいて、喧嘩したり悩んだりした記憶はほとんどない」というから、余程人間関係に恵まれていたか、松永さんが並外れたこだわりのない性格の持主であったかのどちらかに違いない。

大倭殖産に就職したのは平成十四年十一月のことで、大学で学んだ土木工学の知識と技術を役立てることになり、それ以来、一級土木施工管理技士として主に土木の仕事に従事している。

仕事での苦勞を聞くと、「仕事上のことでは挫折感を味わうようなことはなかった。何か問題が出て、次の道が開けてくるというような気持ちでいた」とスツキリしている。

奥さんの安裕美さんは大倭殖産の女性で、建築を勉強して大倭殖産で働いている同僚でもあり、「ぼくの方から声をかけて」、平成十九年二月にゴールインした。「それまであまり旅行したことはなかったが」、結婚してからは温泉好きの松永さんの母親も誘って奥飛騨温泉などで家族旅行を楽しんだりしている。

二年半ほど前からロードバイクに凝っていて、休みの日には仲間と一緒に近場の柳生や和束などに自転車

を走らせたり、時にはレースに出場したりしている。「ロードバイクをはじめてから体重が10kgも落ちて風邪も引かなくなった」というから健康増進に大いに効果があったようである。

ロードバイクで走りに行っている間に、「嫁さんが淋しがるといけないので」犬（ミニチュアシュナウザー）を飼いはじめ、今では家族の重要な一員になっている。

法主様には直接会ったことはないのだが、安裕美さんを通して法主さんのことや顕幽の世界のことを聞くことがある。そういう世界のこととは、「否定もしないし、特に肯定もしない」とさわやかに笑う。

冒頭に記した、昨年十一月からの現場監督としてかわった大規模な用地造成工事については、「沼地化していたので地盤改良材を使った、長雨に悩まされたりしたが、大きな問題もなく無事完成してホッとした」と語ってくれた。

これからの希望を聞くと、「家庭や仕事を大切に、趣味のロードバイクも続け、自分の持味の樂觀主義でさまざまな問題を乗りこえていきたい」と明るく答えてくれた。血液型はAB型。

（聞き手 岸田哲）

## 大倭千一夜

(其の十八)

昭和41(1966)年2月23日発行『大倭新聞』第18号より再録

## ゆかいなお大師さん

法主 矢追 日聖 (満54歳)

——徒然なるままに心霊のくさぐさを喋る夜ばなし

## 可愛い神さん

もうお正月気分もすっかりぬけただろう。ときはや衣更着も半ばだが、梅に鶯なんてまだちと早いようだ。春待つ気持で面白い話を今晩は聞かせよう。最近、大倭へ霊能や靈感のある気ちがいがよく訪れてくる。仲間がふえて嬉しいのだがね……。

この間の晩、布施の或る信人宅へ教導に参った時、霊視、霊聴のことについて、十数年前にあった実例をあげて話したところ、鈴木寿子さんが、「その時私もお供しましたが……法主様！」と大声をあげて笑い出す。

記憶にかけては人一倍弱い私のことだからまるでおさらいをしてもらったようで、誠に有難いことだった。彼女なら話はうまいのだがね、まあ辛抱してもらおうや。

ノートを調べたが見当たらない、多分昭和二十五年頃と思うのだが……。大阪の或る市場でテンプラ商の店をもち、自宅から通っている松本さん(仮名)夫妻がいた。何時の日かは知らないが、奥さんは高野山で買った小型の大師坐像を御本尊に祀って、毎日おがんでいた。この奥さんが霊能者で、何でも伺ってお大師さんから霊示を受けていた。朝市場へ出る時、曇った日など、「お大師さま、今日は雨ですか、それともお天気ですか」。そのお示しは、雨ならお大師さまは笠をか

むって出てくる。

そのほか、問いに対して笑われる時は吉であり、マユをしかめて怒りの顔の時は凶であるという。

この霊能者である奥さんが、訳の分からない病いになったので、お光さんの先生に頼んだ。その先生が帰られる時、門口から外へ出ると後から大声で「アハアハ……ハ……」と笑い声が聞こえるといつて不思議がった。

来る毎に先生にお礼を包むのが大儀になってきた主人は、自分からお光さんの神符を受けに行ってきた。五千円か三千円か、これの方が安上がりと思っただろう。

主人は首にかけ胸に吊るした神符を念じて手の平を当て、霊的治療を始めた。頭の方へ向ければ、腹の方がおかしくなる。腹の方へ当てれば頭が変になる。このこと思えばまたあちらとなつて、とうとう悲鳴をあげたらしい。

このような状況だったので、私の所へ頼みに来たという寸法である。私は鈴木さん達数人に案内されて松本さん宅へ参ったのである。

## お大師さん喜ぶ

祭壇は私達が休息している隣の部屋だった。私は軽く、「お大師さんをごちらへ持っておいで、罰は当たらないから」と言ったが、家の人々は恐れておどおどしていた。

実は私が家を出る時に、この霊の実体をつかん

でいたからなあ。手の平にのせると実に可愛いお大師さんだった。小さくなった狸霊が丸い姿で側にいるのもいじらしかつたよ。

そこで。私ははつきり「狸霊がお大師さんに化けて奥さんに見せているのだよ」と親切気だ言つてやった。奥さんは何か分かったような顔付きで喋り出した。「高野山へ詣った時、笠をかむつてついできたお大師さんがお寺へ入ると、急に笠の前をつかんで顔をかくしたことがありました。どうもこれだけは解せない、ふだんから思っていたのですが……」

奥さんにね、次のことを言つて伺わせた。

先ず「奈母太加天腹」と唱えてから、「大師さまと思つて信仰していたが、そのおさしはみな狸であつたのかどうか」と。

奥さんの方が驚いた。  
今日のお大師さんは、見たことのない朗らかな、上機嫌で「ワハハ、ワハハ」とお笑いになったところを見れば、先生のおっしゃることには間違いは御座いませんと、心から喜んでいたらよ。

このあとあれこれ雑談していると、急に寒くなつてきた。誰も彼もブルブルふるい出したので更に大きな火鉢を部屋に持込んだ。龍神が下りてきたからである。見れば龍体を画いた一軸があつたので、それを手にして私は心の中で浄霊した。間もなく龍神は立ち去つた。

鈴木さん達は、やあ、暖かくなつたといいながら火鉢を外に出すという余興もあつたのだよ。永い月日の間にはこうした面白いこともあるわい。



あじさい日記

3月28日 やや日付をさかのぼって。大倭安宿苑への募金活動のため発足して35年間になる

「あじさいの箱」

が、大倭安宿苑で午前11時から総会・懇親会を行いました。

4月12日 視会。交流の家に来た安本雅さん



(大阪市) がふと参加され盛り上がり(？)しました。4月15日 大倭神宮で節負祭。石垣雅設・清水夫妻や出口三平さんが参拝され、一緒に、坂垣美佐緒(長野県上伊那郡)・梅原晶子(茨城県つくば市)・蛭名健仁(京都市)・海老原美恵(長野県伊那市)・寺田徳五郎(静岡県磐田市)・中村ふみ(岡山県笠岡市)・本田肇子(静岡県袋井市)・ミナル川西宏子(大阪市)等の皆さんがご参りされました。新泉社刊『遺跡を学ぶ』シリーズの100巻目が完成されたことと以前頂いていた70数巻の残りを石垣さんから「寄贈」4月18日 交流の家で午後、F IWC定例委員会。

第327回大倭会文化行事 神戸三宮の賀川豊彦記念館 一偉大なる実践の人を訪ねる

日にち 平成27年6月21日(日) 雨天決行
集合 JR三宮駅中央改札口 10時40分
交通 (奈良方面から) 近鉄学園前9:06分発快速阪神三宮行に乗り、三宮10:18着、隣のJR駅へ。(大阪方面から) JR大阪駅10:00発 新快速姫路行に乗り、三宮10:21分着。
ルート 駅から徒歩 15 分ぐらいで記念館へ。昼食は美味しい店で外食。軽く散策しますので軽装で。
問合せ 湯浅芳郎 090-6987-5847
※賀川豊彦(1887-1960年) キリスト教伝道者。極貧の人々との生活を通じ救済・伝道活動の実践、生活協同組合の創始者、平和運動家、ノーベル賞候補者。著書『死線を越えて』等。(記念館☎078-221-3627)

4月23日 大倭大本宮月次祭。この日は昭和39年4月23日の法話をお聞きしました。(平成23年4月号に「宇宙の根本神霊と自己本霊の交流」として掲載) 大倭会館履具一式8組を新調。5月6日 大倭神宮月次祭。夜、大倭会館で邑倭の会。5月9日 午前10時半からならパークホテルにおいて邑交会。5月10日 視会。藤本宏秋さん(京都府宮津市)の誘いでミナル川西宏子さん・廣瀬雅雄さん(大阪府枚方市)・早川昌美さん(京丹後市)が参加。藤本・早川さんは、都合で夕方に来られた松本祥平さん(三重県伊勢市)と一緒に大倭会館に一泊。大倭会館で2時半から故我原利尚さんの五十日祭が行われました。大倭安宿苑では5月10日 午前9時半から大倭安宿苑守護霊成謙坊大善神にご挨拶。10時半から茂毛路園あじさいホールにて法人成立59周年記念式典。永年勤続者10名(内20年1名)への感謝状。(菅原園) 4月25日 家族交流会。5月10日 バイキング昼食で59周年をお祝いしました。(須加宮祭) 4月26日 奈良県障害者スポーツ大会(卓球)に住死者4名。5月10日 松花堂弁当で祝59周年記念パーティー。

五十嵐章さんが帰幽されました

法主さんの長女輸孺美さんの夫、五十嵐章さんが4月14日に帰幽されました。ならやま会館で15日通夜、16日告別式。享年81歳。1999(平成11)年、第43回野口英世賞受賞(長崎大学熱帯医学研究所長・医学博士)。研究内容等、平成16年9月号「寸苳」を参照下さい。昭和40年の結婚当初は紫陽花邑に住み、大阪大学微生物研究所に通勤されていて、タイに派遣されるといいう時、旧拝殿で開かれた歓送会は七輪で焼きそばだったことを覚えています。引退後奈良に。大倭で、パーキンソン病のため杖や歩行器を使う五十嵐先生とそれに寄り添

う輸孺美さんの姿をよくお見掛けしました。平成15年9月号に「はじめが肝要」、平成17年1月号に「TomorrowとかNextweekという返事が当たり前の世界」を書いて頂きました。読み直して、真摯に研究と向かい合う心に触れた気がしてこみ上げるものがありました。一昨年の夏頃、また原稿をとお願いしたところ、「最近の健康状態から確約はできませんが、「老老介護について書こうと思う」というお返事を頂いていたのですが……。 (春)



(長曾根寮) 4月16日(特養) 5名の方(内傘寿1名・百寿1名)の誕生会。4月25日(デイ) 5名の方による迫力の三味線ボランティア。5月10日 59周年記念式典に2名の方が代表で参加。(茂毛路園) 4月11日 園の周辺でお花見をしながらおやつタイム。5月10日 59周年記念式典で入居者代表が理事長より記念品を受け取られました。(八重垣園) 5月10日 59周年記念の昼食会で手作りの豪華なご馳走。6月23日(火) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

あんない

\*月次祭(大倭神宮) 6月6日(土) 午後2時より大倭神宮にて。 \*大倭会主催第557回視会 6月14日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。6月は12月とともに視ぎの月です。 \*月次祭(大倭神宮) 6月15日(月) 午後2時より大倭神宮にて。 \*月次祭(大本宮) 6月23日(火) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。